

平成27年度第4回
日野市総合教育会議

議事録

日野市企画部企画調整課

平成27年度第4回日野市総合教育会議議事録

日 時 平成28年2月24日 10時00分～10時50分

場 所 庁議室

出席者 大坪市長、西田教育委員長、高木教育委員長職務代理者、岡本教育委員、
濱屋教育委員、米田教育長
事務局＝大島企画部長、松本教育部長、田倉教育部参事、記野教育部参事
徳田まちづくり部参事、赤久保健康福祉部長、池田子ども部長
仁賀田企画調整課長、兼子庶務課長
田中企画調整課副主幹、小出席務課主任

議 事

- (1) 開会あいさつ（市長）
- (2) 議 題
議題第5号 日野市総合教育大綱の策定について（資料No.1）
- (3) その他

(議事の要旨)

開始 10時00分

○仁賀田企画調整課長 それでは、おそろいですので会議を始めさせていただきます。

総合教育会議は市長が招集する会議となっております。議事進行は市長にお願いをいたします。よろしくお願いいたします。

○大坪市長 皆様、おはようございます。

ただいまから「平成27年度第4回日野市総合教育会議」を開会いたします。

本日は傍聴希望者がいらっしゃいますので傍聴を許可したいと思います。御異議ございませんか。

(「異議なし」と声あり)

(傍聴者入室)

○大坪市長 次第に従いまして、まず、私のほうから一言、御挨拶を申し上げます。

今回、第4回目の総合教育会議ということになりますが、大変お忙しい中を皆様には御出席いただきましてまことにありがとうございます。

教育に関する大綱を市長が決定するという趣旨で進めてまいりました。日野市の場合、既に策定されている「第二次日野市学校教育基本構想」、「日野市生涯学習基本構想」、そして「新！ひのっ子すくすくプラン」の推進を基本として大綱をつくろうということで、この間、会議を重ねてきたところでございます。それでも、従来の教育委員会、教育委員の皆様とのスタンスと私ども市長部局とのスタンスはイコールではない。両者をかみ合わせて意味があるものにしていくためにはそれなりの苦労があった。そんな1年であったと思います。それでもせっかくなので、意義のある大綱をつくろうということで、本日は両者が納得できる大綱案の審議となることを願っている次第でございます。

きょうは、大綱の最終案についての会議となりますので、皆様から忌憚のない御意見をいただいて、日野市らしさを体現した大綱をまとめることができるよう祈念を申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして、本日の議題に入ります。

「議題第5号 日野市総合教育大綱の策定について」事務局より説明をお願いいたします。

○仁賀田企画調整課長 企画調整課長でございます。

それでは「議案第5号 日野市総合教育大綱の策定について」御説明を申し上げます。

本日は、これまで御議論いただいた日野市の総合教育大綱について、事務局より最終案を提案させていただきます。前回、会議にておおむねの案を提示させていただきましたが、前回の学識者の皆様からの意見聴取を踏まえ、委員の皆様から御意見をいただいたことや文言を整理させていただき、最終案を作成いたしました。

これまでの議論が踏まえられているか、また、総合教育会議での議論が市民の皆さんに伝わるか、まずは一度読み上げさせていただきますので御確認をお願いします。

お手元の「学びと育ちの日野ビジョン（日野市総合教育大綱）」を読ませていただきます。

学びと育ちの日野ビジョン（日野市総合教育大綱） [最終案]

平成20年6月に制定した『日野市子ども条例』の前文は、「いつの時代にも子どもは社会の宝であり～未来への希望です」で始まり、「おとなは、子どもの力を信頼し、ともに社会をつくっていきます」としています。日野市は、子どもが健やかに育ち、学び、やがて地域を支えることのできる環境を全力でつくっていかうと考えます。

そのために日野市総合教育会議での議論をもとに、「学びと育ちの日野ビジョン（日野市総合教育大綱）」を策定しました。このビジョンのもとで教育と福祉の連携をさらに強化し、『第二次日野市学校教育基本構想』、『日野市生涯学習基本構想』、『新！ひのっ子すくすくプラン』を、地域の人々と共に総合的に推進します。

ビジョンテーマ

「ひのっ子を包み込む学びと育ちの環境が 地域から世界へ羽ばたく日野人を育む」

1. 「人・もの・こと」とのかかわりの中で 自ら学び 未来を拓く ひのっ子を育てます
 - ◇「人・もの・こと」とのかかわりの中で磨かれる よりよきものへの思いと学びが 明るい未来をひらきます
 - ◇自ら学び 考え 行動する力を育み 新たな価値を創ります
2. 「虐待」「いじめ」「貧困」から 子どもの育ちを守り 支えます
 - ◇「一人で悩ませない 人を苦しめない」 このみな願いを みんなの力で実現します
 - ◇自信と元気を身につけた子どもが育つよう 地域社会で子どもを包み込み見守ります
 - ◇学校を核として 虐待・いじめに 正面から向き合い 覚悟をもって 子どもを守ります
3. 郷土（ふるさと）を愛する日野人として成長し 地域を創り上げるつながりをつくります
 - ◇自然環境資源 歴史や郷土文化資源 地域団体等の社会資源を有効活用し 郷土愛を育みます

◇郷土愛をもった子どもたちが成長し 新たな地域を創り上げていく 日野人としての成長を支えます

4. 藝術文化の本物に触れ 本物を自ら創る文化を高めていきます

◇藝術文化活動を行う環境整備を進め 本物に触れる体験・主体的な活動を充実します

◇表現するよろこび 創造するよろこびに まちが響きあいます

5. スポーツを 「する」「観る」「支える」ひのっ子・日野人を増やします

◇2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催をきっかけとし 子どもや若者が持つエネルギーを余すことなく発揮できる環境 多様なスポーツに関わる機会を充実します

◇体を動かす心地よさ スポーツする楽しさに 心が動き笑顔があふれます

6. 家族の中で豊かな個性が育ちます 子どもを育てる家族を応援します

◇子どもは家族の中で成長し 家族のつながりを学びます 子どもを育てる家族を応援します

◇多様な家庭の文化を尊重し 自分の育った家庭環境を誇りに思える地域社会をめざします

平成28年2月24日

日野市長 大坪 冬彦

最終案については、以上となります。

よろしく御協議をお願いいたします。

○大坪市長 ただいま事務局のほうから最終案ということで「学びと育ちの日野ビジョン（日野市総合教育大綱）」が読み上げられ、提示をされました。これにつきまして、皆様から御意見、御質問等がございましたらお願いいたします。

○西田教育委員長 それでは、最初に西田から話させていただきます。

ここに至るまでに市長さんと意見交換が十分にできましたので、私ども教育委員は考えや願いをしっかりと述べることができました。また、市長さんのお考えもよく理解できました。みんなの考えや願いが集約された大綱を一緒につくることができたという思いであります。

日野市の教育と福祉、すなわち学びと育ちの両面から捉え、今、市長さんがおっしゃいましたように、さらに「第二次日野市学校教育基本構想」、「日野市生涯学習基本構想」、「新！ひのっ子すくすくプラン」の推進を基本として、日野市らしい大綱にしようという考えでスタートいたしました。それらをどう集約して柱立てにし、どのような文章表現にするか、これはとても難しいことでした。一生懸命考えました。そこで子供や若者、大人たちの姿をいつも頭に描きながら考え、意見を述べさせてい

いただきました。日野市らしさが出た理想とする大綱を提示していただいたとっております。また、誰もが読みやすく、わかりやすく、行動に結びつきやすい表現にしようという話し合いを初期にいたしました。それも生かされて、市民に伝わりやすい、大綱だと思えます。

○高木教育委員 冒頭、今回の大綱制定に当たっては、市長さんから市長部局と教育委員会のスタンスがイコールではない。両者の納得できる大綱をつくりたいということでしたが、今、事務局から示されました大綱最終案につきましては、教育委員会のこれまでの意向も十分に踏まえた文言になっているものだと私自身は、受けとめております。

振り返ってみますと、昨年5月から日野市総合教育大綱の制定に向けまして、この間、3回の教育会議を開催し、市長さんを初めとする市長部局の皆さんや教育委員とで論議を行ってきたわけなのですが、確かにおっしゃるようにスタンスの違いというのはある部分であったと感じていました。

また、前回の総合教育会議では事務局からもございましたけれども、2人の学識経験者を招いて、この案について認識や助言もいただけてきました。そして、そのような公式の教育会議だけではなくて、その間では、関係者でも非公式の協議なり、論議もさせていただき、本当に多様な、深掘りした多角的な議論をしてきたのではないかと私自身も感じているところであります。このような経過を経て、きょう、教育大綱の最終案が、関係者の合意のもとに制定されるということで、大変高く評価をしているところでございます。

大綱にもありますけれども、これらの論議の中でも特に子供たちを取り巻く社会、家庭環境の悪化ですとか、また、発生しておりますいろいろな事象は大変深刻で、憂慮すべき状況にあります。また、日野市も例外ではないと感じております。この現実なり、状況を冷静に認識し、子供たちにより焦点を当てた活動、取り組みを今まで以上に一步一步確実に進めることが大事だと感じております。

ほかの委員の皆さんの意向もあるわけなのですが、恐らくきょうの場面で教育大綱が決定し、スタートに立つということだろうと思っております。今後について若干触れさせていただきますと、総合教育大綱の遂行、実現に当たっては、まずは福祉と教育の関係者を中心に一丸となって、日野市教育大綱の継続的な改善と実現に努力していきたいと強く思っております。

そして、各事項の進捗状況の管理ですとか、具体的な事業計画のPDCAサイクル、Plan、Do、Check、Actionのサイクルを着実に回すこと、また、それを支えていく具体的な仕組みですとか、仕掛けづくりが非常に大事ではないかと感じているところでございます。引き続き市民の皆さんを含めて、論議を深めていく必要があると考えておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

今後に向けて、ともに頑張っていきたいということでよろしくお願いしたいと思います。以上です。

○大坪市長 どうぞ。

○岡本教育委員 冒頭、事務局から市民に伝わるかという大切なことがお話しされていましたが、私たちもこれまで3回の会議で大綱作成に当たっていろいろ考えることになりました。市民の皆さんにもこの思いが伝われば、大変うれしいと思います。そういった意味で、この3回の会議は本当にありがとうございました。という感じでございます。

既に教育委員会としては「第二次学校教育基本構想」「生涯学習基本構想」を策定しておりましたので、それらをベースにするということできちんと今回の大綱と整合性がとれたものである。そのように思います。

大事な点は、これからの日野市のまちづくりを担っていく子供たちにどのようなビジョンを届けるかということだと思います。まさに、この大綱にありますように「自ら学び 考え 行動する力を育み 新たな価値を創ります」と端的に表現されているように、全ての基盤にこれになっていくのではないかと思います。希望を持って伸びやかに、かつ、たくましく育っていく環境をつくっていく責任が我々にあると思えました。

日野市の子供たちを育てるのは、家庭であり、地域であり、学校です。この3要素というのは長い間、教育委員会で取り組んできた重要なテーマです。すなわち市の重要なテーマとも言えます。

例えば青少年協議会でも議論されていますように、家庭や地域の方々が何とか子供たちを難しい、厳しい社会状況の中ですくすく育っていくようにするにはどうすればいいのかということをご苦労されております。そういった意味で多くの市民が参加して、子供たちを育てていく環境はまさに生涯学習構想で目標としているものです。市民の皆さんが取り組んでいく目標だと思います。そういった思いが冒頭ありましたように、市民に伝われば本当にいいと思います。生涯学習に関して言えば、ここにあります「新たな地域を創り上げていく 日野人としての成長を支えます」とうたっておりますので、そういった意味でも市民の皆さん一人一人が非常にエンパワーメントというか、そういうエネルギーを受けて頑張っていけるのではないかと考えております。

このように考えていきますと、新しい大綱を中心に教育委員会を含めた市の行政としての責任が非常に大きいと考えております。先人が苦労した福祉と教育の連携政策を大切にしていきたいと思っております。そのために今の教育委員会の一員として、さらに努力をしていきたいと思えました。

以上です。

○濱屋教育委員 市長から、冒頭に日野らしさを体現した大綱になっているかどうかというお話をいただきましたけれども、私はバランスのとれたとてもよい大綱ができたと感じております。この大綱を読むとき、あるいはこれから市民にお知らせするときに、特に大事となる言葉、動詞が3つあるのではないかと私は考えております。

1つ目は「拓く」という言葉で「開拓」の「拓」です。教育基本構想の中では、最初の基本方針の中で「かかわりの中で知恵を出し合い、自立・協働・創造に向けた『21世紀を切りひらく力』」としています。

また、市の施策では、大坪市長がかねてからおっしゃっているように「諸力の融合が可能性に満ちた未来を拓く」と同じように「拓く」としています。これからの時代で私たちが生きていくに当たっては、何を知っているか、あるいは何ができるかという知識、技能だけではなくて、それをいかに使うか、思考したり、判断したり、表現したりする力も大事ですけれども、それに加えて、今後どのように社会、世界とかかわっていき、その中で主体的に学び、よりよい人生を送り、協働していくかということがより大事だと思います。そうしたメッセージを1つ目に込めることができたのではないかと感じています。

2つ目に大事な言葉は「包み込む」です。あるいは「支える」と言ってもいいと思いますが、教育基本構想の中では、学校のほうでは子供一人一人が自分は大切な存在なのだ実感できる学級や学校づくりが必要だと言われていて、家庭のほうでは自尊感情を高めることが大事だとたわわれています。

ただ一方で、現状を見たときに16%に及ぶ貧困世帯があったり、虐待が増加しているという現状があるわけです。そうした中で私たちが協力してやらなければいけないことに目を向けて、取り組んでいく姿勢を示したことはとてもよいことではないかと思っています。

3点目は、イマジネーションのほうの「創造する」の「創る」です。大綱では2カ所に出てきます。1つ目の「自ら学び 考え 行動する力を育み 新たな価値を創ります」というところと、4つ目の「芸術文化の本物に触れ 本物を自ら創る文化を高めていきます」というところです。既存の知識、技術、文化を学んだ上で、新しいものをつくり上げていく温故知新といった発想をこれからも大切にしていきたいと考えます。

私は1つ目の◇のところ「よりよきものへの思いと学びが 明るい未来をひらきます」という言葉がありますが、この大綱をつくるプロセスそのものが皆さんとの話し合い、議論の中で磨かれてできたよきものだったのではないかと考えています。

たしか1回目の会議のときに、市長が産みの苦しみということをおっしゃったのだと思いますけれども、産んだ後は育てていかなければいけないと考えます。高木委員がおっしゃったようにこれを今後どういうふうを実現していくのか、多くの市民の方にこの趣旨を理解していただき、協働できるような体制をつくり、実行に移していく。これがこれからの私たちの役割ではないかと感じております。

以上です。

○米田教育長 案の「『人・もの・こと』とのかかわりの中で 自ら学び 未来を拓くひのっ子を育てます」の言葉で案としていただきまして、本当にありがとうございます。子供たちが実生活や実社会の中から生まれるよりよきものへの思いが湧き出てくることが、子供たちが課題を捉える瞬間なのです。そこから学びが始まるということです。

子供たちはよりよきものに向かうために情報収集をして、そこから注目すべき情報を取り出す。取り出した情報を整理、分析をして、考えを組み立てていく。それを仲間とともにやっていくということです。時には教師とともにつくっていく。ICTを活用

して、ユニバーサルな教育環境のもとにこういった学びを展開していくということをございます。

より本質に近づくために伝える力を磨いて、聴く力を磨いて、そして、みんなでいろいろな考えを発展させていく。その思いを実践にまでつなげるといふ学びの風景を多く多く創出していけたらと思います。

もう一つ、この案の中で2番の最後の行です。「学校を核として 虐待・いじめに正面から向き合い 覚悟をもって 子どもを守ります」。この案、ありがとうございました。

子供たちを取り巻く状況は、私たちの子供のころと全く状況が違っているということです。いわば社会が持つ負の部分が一番弱いところ、つまり、家庭や子供たちに押し寄せてきているということです。何といたっても、子供たちが一番長い時間を過ごすのは学校です。子供たちがいろいろな活動をする中で、変化に真っ先に気づくことができるのは学校だと思ひます。

リアリティーのある子供たちの状況を学校はいろいろなところから学び合って、かたい言葉ですが感度を上げていく。そして、その中でいろいろな関係機関と連携をしながら子供たちをしっかりと守っていく。この営みはいろいろなことが起きている状況を考えると、まさにこの言葉にあるように覚悟を持って取り組むことかと思ひます。このことについて、日野市が一步でも、二歩でもしっかりと取り組んでいただけたと思ひております。本当にここまでの私たちの議論をこういう形で案としていただいたことに感謝をしています。

委員長からも、もう一言いいですか。

○西田教育委員長 ありがとうございます。6番目で家族と家庭に触れていただきました。強く願っていたことですので大変うれしく思ひます。

どの家庭にも、家族が大切にしている楽しみや、家族で時間をかけて作ってきたこと、また譲れない約束事などがあるはずです。それを家庭の文化として、大事にしたいと思ひます。親が家庭に自信を持てば、子供は家庭が好きになり自信も生まれ、個性を豊かに伸ばすことができます。

「子どもを育てる家族を応援します」「多様な家庭の文化を尊重し自分の育った家庭環境を誇りに思える地域社会をめざします」2項目を入れていただいたことに感謝いたします。

5番目に「子どもや若者が持つエネルギーを余すことなく発揮できる環境 多様なスポーツに関わる機会を充実します」を入れていただきました。これも強く願っていたことですので、大変うれしく思ひます。子供や若者にとって希望の持てる項目です。どのように具体化されるか楽しみです。早期に具体化されることを期待しています。

○大坪市長 皆さんからは、きょうの最終案については特に御異論等がなかったようですけれども、感想も含めてということのでぜひいろいろと御意見をいただければと思ひます。

どうぞ。

○高木教育委員 私は、論議を始めると、いろいろな立場によっての違いがあるのは明確になりましたし、また、教育委員は教育委員で、皆さんで真剣に話し合いながら逆にこう考えるという案もつくらせてもらって、本当に多様な論議ができたこと、こういうプロセスを経て今回の大綱ができたということが本当に素晴らしいことだと思います。これが次への具体的な実現に向けた活動の中に非常に生きていくと思います。

日野市の場合には、これまでも学校教育基本構想ですとか生涯学習の基本計画もつくってきましたし、また、ここで学ぶ力向上プロジェクトや学校現場のいろいろなプロジェクトの中で、かなり教育大綱につながるような考え方を学識経験者も我々もいろいろな場面で論議ができました。今回、私自身、できた大綱も非常に素晴らしいですけれども、その決める過程のプロセスの論議、時間をかけて十分できたということ非常に感謝もしていますし、評価をしたい。そのことが今後の日野らしさなり、本当の市民の皆さんへの理解浸透、この大綱の実現につながっていくものということで確信をしていますので、ぜひ関係者で心を一つに邁進していきたいと考えております。

以上です。

○岡本教育委員 前回、学識経験者として大学の先生もお呼びして、常日ごろ日野市がお世話になっている方々の御意見を聞かせていただき、ある意味、大きな日本の教育環境を考えれば、大学改革というのが一つの 이슈 というか大事なポイントになっていると思います。

そういうことも踏まえて、日野市は既に、先ほどありましたように先輩の御努力で「ひらこう世界へ のびようともに つくろう夢を こえよう自分を」と今、まさに最終的な目標であるものを日野市が着々とつくっていると捉えられると思います。

一方、現実的には非常に私の世代的なことかも知れませんが、2項目の「虐待」「いじめ」「貧困」というのは大変私にとっては、教育大綱としても、言葉として厳しいのではないかと。しかし、先ほど委員さんの御意見にもありましたけれども、日野市としても、こういうひのっ子教育を目指してずっとやってきた経緯はありますけれども、足元の現実是非常に厳しいものがあります。

そういった意味で、学校を核としてという言葉はある種の危機感を持ってというか、私たちが緻密にというか着実にというか、丁寧にという眼でこの項目に取り組んでいかなければ、先人が目指していたひのっ子教育には到達が難しいのではないかと。そういう感をこの総合教育会議で十分認識をしましたので、今後もしっかりやっていきたいと思いましたが。どうもありがとうございます。

以上です。

○大坪市長 特によろしいですか。教育長、何かありますか。

○米田教育長 いえ、ありません。

○大坪市長 御意見ありがとうございます。

今、総合教育会議の1回目の自分の発言というのを探してしまっていて、そのときに、これは法律の目的、改正された目的について述べている部分なのですが、自分でしゃべりながら教育の政治的中立、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政に

おける責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、そして、地方公共団体の長と教育委員会との連携強化などを目的として抜本改正したということでありました。

1回目の会議を開いたころに、既にあちこちの自治体ではもう教育大綱ができているところがありまして、やけに早いと思ひまして、幾ら何でも早いのではないかと思ひましたけれども、それはそれぞれの自治体の事情がありますからいいですが、我々の意味は多分違うのだらうということで、この1年間、しっかりとした議論をさせていただいてきたなと思ひています。

私のほうで主張してきたのは、今、抽象的な文言で申し上げましたけれども、この総合教育会議をなぜやるかという原点に立ち返った場合、当然、大津市での出来事があったでしょうし、それを受けて、改めて自治体の長というものの教育に対するかわり方、そして、教育委員会のあり方、教育行政のあり方について少し考えていこうということがあったと思ひます。ある意味、私としてはそれをどう受けとめて、どう反映をさせるのかということを考えながら総合教育会議に臨んできたと思ひています。

その中で多分皆様にとっては耳が痛いといひますか、えっと思ひような発言も多分させていただいたし、ある意味「虐待」「いじめ」「貧困」という言葉が、教育に係る言葉の中に生々しい形で載ることはこれまで余り少なかったのではないかと思ひます。直接、そういう現象は学校という現場であるのは知っているけれども、それを正面から取り上げてという形では多分なかったと思ひますし、逆に教育の力によって、そういう問題を解決していくのだということに変わりはないと思ひます。

ただ、今、申し上げたような背景、そして、この会議の意味を考えるとこの文言については、私としてはできれば何としても入れていただきたかったということがあります。その点で踏み込んでいただいたことを、本当に教育委員の皆様には心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

それに加えて、この大綱についてはそれぞれかなり具体的なことも含まれています。先ほど、濱屋委員からありました「拓く」「包み込む」「創る」という観点の視野のもとに具体的に何をしていくかということもしっかり書いてある大綱というのは、恐らくほかの自治体の大綱を全部見たわけではありませんけれども、余りないと思ひます。

そういう意味でしっかりとした視点に基づいて、しかも、学校の置かれた現実の状況の中で厳しい問題と向き合いながらも本当にひのっ子を育てていく。「拓く」「包み込む」「創る」を実現していく。それが家庭であり、スポーツであり、文化であり、ふるさとである。そして、そこから最終的には世界へ羽ばたいていくひのっ子をつくらうという形で結んであるという意味で、当初、望んでいたもの以上の大綱案がきょう提示されたかと思ひます。

また、それに対して、委員の皆様一人一人の思ひがそれぞれの思ひに込えられるような中身が示されているということでもありますので非常によかったと思ひます。この1年間、本当に御苦勞さまでした。皆様のお力でこういう日野市らしさを体現した大綱ができ上がったのかなと思ひます。

最終的にこれは大綱ということですから、いわゆるパブリックコメントをやるものではないかもしれませんが、何らかの形で市民の皆様には当然御意見を聞きたいと思いたすし、どんな感想を皆さんがお持ちになるのか、非常に興味があるところでありたいし、逆にそれに対するいろいろな御意見、リアクションについても先ほど岡本委員が言っていた、これから進めていく場合のやり方をどうするかというお話を具体的に進めていく。そして、高木委員のおっしゃったPDCAサイクルで実際に大綱を実現していく場合に、その声も反映させていこうかと思っております。いずれにしろ、本当にこの1年間、教育委員の皆様にはありがとうございました。感謝を申し上げます。

感想が中心になったと思いますが、御意見をいただきました。ほかに大綱最終案につきまして、御意見、御感想等はございませんか。

どうぞ。

○高木教育委員 きょう、ここで最終案をもって、大綱が決まっていくわけなのですが、この後、具体的に特に市民の皆さんへどのように展開されていくという日程なり、方法なり、現時点でお考えがあればお伺いしたいと思うのですけれども、その辺はどうですか。

○大坪市長 事務局、どうぞ。

○仁賀田企画調整課長 事務局でございます。本当に長時間御議論いただき、ありがとうございました。

今後の周知、また活用の部分についても御説明をさせていただきたいと思いたす。

まず、周知なのですけれども、広報、ホームページ、庁内の掲示等を使って、広く周知を図っていきたくて思っております。特に庁内掲示等につきましては、今、そこに市民憲章という形で出ているのと同じような形で庁内の何カ所かに分けて、こういうイメージなのですけれどもつくらせていただいて、掲示をしたいと考えているところでございます。

また、実際の活用というところでございます。主に学校、子育て、職場等ということになるかと思いたすけれども、そちらにつきましては事務局と教育委員会が連携をして、実際の活用等について、先ほど御意見をいただきましたPDCAサイクルを踏まえて、具体的な検討の方法をこれから詰めさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。また、そちらにつきましては次でしゃべりますけれども、来年度以降の総合教育会議の中でも、きちっと進捗状況という形で御報告をさせていただきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○大坪市長 とりあえず、後ほどの議題で具体的なスケジュールが多分あるようでありたいので、それでは、この大綱の最終案の協議はこれで終結をさせていただきたいと思いたす。

本案を最終案として、日野市における総合教育の大綱としたいと思いたすけれども、御異議はございますか。

(「異議なし」と声あり)

○大坪市長 それでは、そういう扱いとして、この先の手続を進めさせていただきます。

先ほど、事務局に少しお話をもらいましたけれども、今後についてというのが次のスケジュール、議題になっておりますので、事務局より説明をお願いします。

○仁賀田企画調整課長 それでは、来年度の「日野市総合教育会議」のスケジュール等について御説明を申し上げます。

次第のところにも載せているのですが、本日、確定させていただきました日野市総合教育大綱に掲げた項目の推進について、進捗確認を含む意見交換を行っていきたいと考えているところでございます。回数については年2回ほど開催をしたいと考えておりました、今の予定では平成28年8月ごろ、また、来年の今ごろということで平成29年2月ごろの2回ほどの開催を考えているところでございます。進捗状況等、実行体制をしっかりと示しをして、それをまた議論していただくという形で進めていきたいと考えておりますのでよろしくお願いをいたします。

スケジュール等についての説明は以上でございます。よろしくお願いをいたします。

○大坪市長 今の事務局の説明につきまして、何か御意見、御質問等はございますでしょうか。よろしいですか。

なければ、来年度の実施スケジュールについても説明をいただきました。

それでは、本日予定いたしました議題は全て終了いたしました。本当に最後「3 その他」で委員の皆様から何かございますか。よろしいですか。

(「なし」と声あり)

○大坪市長 それでは、本日、予定いたしました案件は全て終了いたしました。

これをもって、本年度の「日野市総合教育会議」を閉会といたします。ありがとうございました。

閉会 10時50分